

発行所  
カトリック福江教会  
広報委員会  
五島市末広町 3-6  
☎ 0959 (72) 3957  
●ホームページ●  
<http://fukuechurch.jimdo.com>

# 大司教様とともに

主任司祭 中村 満



今年も早いもので春を迎えました。まだまだコロナ禍にあり従来の生活、信仰生活を取り戻せない状況ですが、このパンデミックが早く終息しますように願っています。

昨年暮にフランシスコ教皇様は、高見三明大司教様の引退届を受理し、中村倫明補佐司教様を長崎教区の大司教に任命されました。司教

不在の期間を空位と言いますが、退任後の空位の期間がまったくなく、後任を任命していただき、長崎教区としては嬉しい限りと言わべきでしょう。まさに

神に感謝。

過日、カテドラルの浦上教会で大司教着座式が執り行われましたが、ペトロ中村倫明大司教様とともに長崎教区はこれから歩んでいくことになりそうです。できれば早い時期に福江教会にもお出でいただきたいと思っています。

中村大司教様のことを私の知る限りですが、少し紹介したいと思えます。大司教様は西海市大島町のお生まれで、太田尾小教区の出身です。私はお隣の島、黒島の主任司祭として働いたことがありますので、漁船に乗って何度か太田尾教会を訪ね、子供たちのキャンプや魚釣りなどもさせていただきました。太田尾教会

と聞く懐かしくなります。大司教様とは大神学校で数年、生活を共にさせていただきましたが、神学生の時から将来の司教様だと予想していました。祈り、勉強、共同生活と模範的な神学生でした。

私が先輩で、同じ中村でしたので、ミッチーと愛称で呼んでいました。それくらい親しみやすい尊敬できる先輩でした。司祭叙階後は、予想通り、慕われる司牧者となり、中でも福音の内容、意味を分かりやすく伝えるためにパフォーマンスを取り入れ、機知にとんだ説教、話を得意にし、小教区の主任司祭として働かれたと拝察しています。また、ローマ留学で倫理神学を学び、養成者として小神・大神学校で後輩の育成にも携わり、後輩司祭とも交流があると思っています。

大司教様のモットーは「ともに」ですが、これから長崎教区の良き牧者として私たちとともに歩み、祈り、導いてくださると確信しています。

## 水分補給

助任司祭 稲田祐馬

みなさん、水分補給してらっしゃるでしょうか。冬はあまり汗をか

きませんが、でも空気が乾燥しているので皮膚からの蒸発でも水分が奪われるそうです。また、夏に比べれば喉の渇きを感じにくいようです。なので、いつのまにか軽い脱水症状に陥っていることもあるそうです。夏はもちろん気をつけますが、冬も気がけて水分をとっていきましょう。

「荒れ地の渇き果てた土のように神よ私はあなたを慕う（典礼聖歌8番）」、「谷川の水を求めてあえぎさまよう鹿のように、神よ私はあなたを慕う（典礼聖歌144番）」。聖歌を歌わなくなつて久しいところか、ごミサも中止の状況になつたりして、典礼聖歌という懐かしい感じもしてくるかもしれません。「渇き」は、身体的な生活だけでなく、霊的な生活においても重要なことからです。旧約聖書において「魂」と訳されている言葉は、「喉」を指すときにも使われる言葉です。喉の渇きと、魂の渇き。喉が渇くとどうしても水分を欲するように、魂が渇くとどうしても神様を求める、と言えるのかもしれない。そして言うまでもなく、魂の渇きを満たしてくださるのは愛そのものである神様です。

しかし、この魂の渇きは、冬の脱水症状のように、気が付きにくいものかもしれません。冬の体の状態の

ように、渴いていることに気づかない、あるいは鈍くなつていくというのは魂においても十分に言えることです。教会に集まることのできなくなつた状態で、私たちの魂もどろん鈍つていくこともありえるでしょう。コロナ後の教会はどのような感じになつていくのでしょうか。

長崎の教会に生きる者として、思い起こしたいのは、潜伏キリシタンたちのことです。七代二五〇年もの間隠れていて、それでも信仰を守つていました。状況は異なりますが、現在、これまでのように教会に集うことができなくなつたわたしたちは、彼らの姿に模範を見たいものです。彼らの情熱はわたしたちにも受け継がれているはずですよ。

「渴き」に対して自覚的にいられますように。キリシタンたちもきつと魂の渴きに気づいていたはずですよ。わたしたちが神さまを呼び求めることができるのは、渴きを知っているからです。「イエスは（サマリヤの女に）答えて言われた。『この水を飲むものはだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。』（ヨハネ福音書4・13-14)』」

## 共に考えてください。 祈ってください。

助任司祭 西田祐尚

この原稿を書いている今、ウクライナにロシアが侵略を開始し、ウクライナ全土には警報サイレンが鳴り響いています。リアルタイム（Youtube）でウクライナのLIVE映像を見ながら、多くの人たちが逃げまどい、避難している様子を見えています。すでに多くの死者が出ていますが、「ウクライナの皆さん、どうかご無事で」と祈る気持ちで、見えています。

さて、人はなぜこうも争いを繰り返すのでしょうか。「どれだけ、過去の犠牲や歴史から学ばないんだ」と怒りすら覚えます。とにかく、ウクライナの人たちが無事でいてくれる。ロシアがウクライナからの早期撤退を決断してくれる。今は、そのようなことを祈るばかりです。

さて、最近、東京の知人からよく電話がかかってくる。その八割が相談事や教会の教えや聖書に関する疑問や質問です。それに対して、私は可能な範囲で応えるようにしています。しかし、いくつか答えられないような質問があった

のですが、先日答えられなかった質問を皆さんに紹介します。「アイランドではカトリックとプロテスタントとの対立が、長い間ありました。私たち人間は、なぜ、カトリックやプロテスタントであっても、戦争をしてしまうのでしょうか」と。人間が争う、ましてや、カトリック、プロテスタント、同じ、キリストを信じ、父なる神様を信じている兄弟姉妹、それが、銃を取つて、殺し合つてしまう。なぜ、そうなるのか、私にもわかりませんでした。もちろん、アイランドの問題は、歴史的に様々なことがあつたことでしたので、両者が対立（戦争）をしてしまったのでした。

私たちが考えなければならぬこと、それは、人はなぜ争うのか。なぜ、この世界から争いがなくならないのか。なくすためには、何をすべきなのか。私は人と本気で争わないために、何をしているか。それを共に考えていきましよう。

この文章が皆様の元に届くころ、ウクライナとロシアの戦争が、終わっていることを願います。犠牲者が増えないことを祈ります。亡くなられた、民間人、兵士の皆様の永遠の安息を願いながら。皆様も、共に祈りください。

### 福江教会 2022年の黙想会 (3月14～15日/月・火) 講話：牧山強美（大神学院長）神父様

|          |          |        |                    |
|----------|----------|--------|--------------------|
| 午前<br>の部 | ● 14日(月) | 8時30分  | 赦しの秘跡(9時30分まで)     |
|          |          | 9時30分  | 講話(講話:40分、休み:10分)  |
|          |          | 10時20分 | 講話(講話:40分、休み:10分)  |
|          |          | 11時10分 | ごミサ(ミサ後、赦しの秘跡:30分) |
|          | ● 15日(火) | 8時30分  | 赦しの秘跡(9時30分まで)     |
|          |          | 9時30分  | 講話(講話:40分、休み:10分)  |
|          |          | 10時20分 | 講話(講話:40分、休み:10分)  |
|          |          | 11時10分 | ごミサ(ミサ後、赦しの秘跡:30分) |

|          |          |       |                     |
|----------|----------|-------|---------------------|
| 午後<br>の部 | ● 14日(月) | 6時30分 | 赦しの秘跡(7時まで)         |
|          |          | 7時00分 | 講話(講話:40分、休み:10分)   |
|          |          | 7時50分 | 講話(講話:40分)          |
|          |          | 8時30分 | 夕の祈り(赦しの秘跡:9時30分まで) |
|          | ● 15日(火) | 6時30分 | 講話(講話:40分、休み:10分)   |
|          |          | 7時20分 | 講話(講話:40分、休み:10分)   |
|          |          | 8時10分 | ごミサ                 |
|          |          |       | (ミサ後、赦しの秘跡:9時30分まで) |

■ 22年の黙想会はコロナ禍のため、2日間です。手の消毒、換気、座席など感染予防に配慮し、密にならないようお願いいたします。  
 なお、体調不良や健康不安のある方は自粛ください。  
 \*黙想謝礼献金は、今年不要です。(前年分有りのため)

# 初聖体式

2021年  
12月19日(日)

## おめでとう!!

本格的な冬を迎えた十二月十九日(日)福江教会では六人の子供たちが初聖体のお恵みを受けた。



中村神父は

「御聖体はイエス様自身です。一人一人のもとに来てくださったというところで、イエス様が人生のパートナーとも言える。イエス様と共に歩んでいくということは、受難と死と復活をとおって行けると約束されているということでもあります。初聖体は小教区のお祝いでもあります。未来があるプレゼントであり、祝福です。みなさんで見守り育てて行きましよう。」とお祝いの言葉を述べ



られた。お礼の言葉で保護者代表の西津さんは「コロナで延期になりましたが、子供たちを導いて頂いた神父さまや、カテキスタのシスター、子供たちに楽しく熱心に指導して

かみさまによろこんでいただくためにがんばること!



◆ヨゼフ  
中野朝日  
おてつだいをがんばる。おともだちにやさしくする。ごミサにさんかする。



◆フランズコ  
濱崎陸翔  
きょうかいいつておいのりをします。ともだちとなかよくします。おてつだいをがんばります。



◆ラファエル  
坪口晃志郎  
しんぶさまやシスターのおはなしをよくきいて、かみさまのおんきょうをがんばる。よいこになりたいです。



◆マザーテレサ  
熊川愛梨  
おわりのことばをがんばりたいです。



◆マリア  
西津陽音  
きれいにてをあわせて、こころをこめておいのりをがんばる。



◆深堀翼  
人やおともだちに、やさしくする。

ただきありがとうございました。初めての許しの秘跡をうけて、心と体で一緒になれた喜びを胸に、健やかに成長するように見守っていきたい」と述べられた。緊張した様子の子供たちを、喜びとあたたかい雰囲気の中で、初聖体式は執り行われた。

### 下五島地区

## 合同堅信式

2022

―教会の信仰を堅く守り、力強く証しすることを約束します―

一月十六日(日)十一時から下五島地区の合同堅信式が、高見大司教司式のもと静粛に執り行われました。

下五島地区共同で行われるのは二年ぶり、福江・水ノ浦・浦頭・貝津・奈留教会の二十八名が堅信の恵みを授かりました。

また、昨年十二月にその職の退任を表明しました高見大司教のおそらく下五島での最後のミサになることも考えられ、これまでのご献身に対する感謝があふれるミサとなりました。



した。高見大司教からは、アメリカの歌手の歌詞から、次のような言葉が受堅者をはじめミサ列席者に向けて述べられました。

「いろいろな問題はあっても、ほんのちよつとの愛があれば、その問題は解決するし、そのちよつとの愛をもって信仰ある生活をおくりましょう」

また、大司教としてのこれまでの十八年間、信者やシスターなどからいただいた多くの支援に対して感謝の言葉を述べられました。

保護者代表のお礼の言葉において、「これまで親の保護の中で成長して来た子供たちが、これから様々な選択を行い自らの道を切り拓いていかなければならない。時には思い悩んだり、挫折を味わう事もあり、コロナ禍で制約を余儀なくされていることも多く、将来の不安も多いかと思うが、彼らには聖霊のお恵みがあり、イエズス様の弟子たちが聖霊の力を得て世界中に旅立ったように、子供たちも人々の模範となることで福音を延べ伝える者として乗



り越えていくことでしよう。  
 私たち保護者も彼らと同様改めて  
 聖霊のお恵みを意識し、行動してい  
 きたいと思えます。」と述べられま  
 した。

そして、神父様、シスターそして  
 本日の秘跡を共に祈りくださった  
 信徒の皆様への感謝の意と高見大司  
 教様に対して、これまで信徒を導き  
 いただいたお礼の意の言葉がありま  
 した。

受堅者代表のあいさつでは、「自  
 分の信仰に責任を持つということ  
 はまだ分からないが、これまでどおり  
 神様と周りの皆さまを大切にしま  
 ら信仰の歩みを進んでいきたい」と  
 という意志と高見大司教様への感謝の  
 言葉がありました。

この日は雨雲で覆われ小雨もぱら  
 つく天  
 候でし  
 たが、  
 ミサ中  
 は御御  
 堂に陽  
 が差し  
 込み、  
 神様の  
 祝福を  
 いただ  
 いてい  
 るよう



に感じ、また、神の愛を受けること  
 を喜びとしながら信仰生活を送るよ  
 うにしなければならぬという大司  
 教様の言葉をあらためて深く心に刻  
 んだ良き日となりました。

## 改修委員会より 報告と御礼



完成した塀の様子

昨年からはじめた教会境内地外周の  
 塀とトイレの改修工事は、年末に完  
 了いたしました。トイレは完了後、  
 二月に検査を受け、今月からは使用  
 できます。新倉庫は、完成が遅れま  
 すが新年度の予定です。

工事費につきましては、信徒の皆  
 様方の多大のご寄付と手持ちの基金  
 を取崩して捻出いたしました。コロ  
 ナ禍にあつて経済的に苦しい状況で  
 あつたと拝察いたしますが、信徒の  
 皆様方には改修工事のためにご寄付  
 の協力をいただき衷心から御礼申し  
 上げます。福江大火当時の航空写真  
 を見ると、改修したブロック塀はす

でに設置されていますので、六十余  
 年ぶりに新しくされたことになりま  
 す。新塀は、フェンスの取り換えな  
 どが必要でしょうが、メンテナンス  
 次第で百年以上は大丈夫だと見込ん  
 でいます。

改修工事を完了して下さった工事  
 関係者をはじめ、工事に関わって下  
 さった全ての皆様方に心から感謝申  
 上げます。

### ◆レリーフについての解説◆

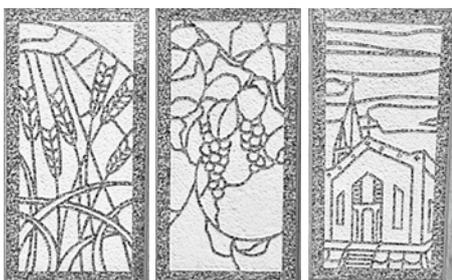
境内地西側の道路に面した九か所  
 の塀柱に板状大理石のレリーフを配  
 しました。これは、教会としての趣  
 と福音宣教の視点から考案したもの  
 です。門扉の奥から三か所は、父と  
 子と聖霊の三位一体の神を表現。一  
 枚目は、XとPを表記。キリストの  
 ギリシア語の頭二文字をデザインし  
 たもの。二枚目は、慈しみ深い父を  
 表現。ルカ15・11-32(放蕩息子)



父と子と聖霊の三位一体の神を表現



キリストの救いの神秘を表現



聖体の秘跡と教会を表現

を参照。三枚目は、聖霊のシンボル  
 である鳩を表現。次の三か所は、キ  
 リストの救いの神秘を表現したもの。  
 一枚目は主の降誕の場面を、二  
 枚目は主の受難の場面を、三枚目は  
 主の復活の場面をそれぞれデザイン  
 したもの。次の三か所は、聖体の秘  
 跡と教会を表現したもの。一枚目は  
 パン(御体)のシンボルである麦を、  
 二枚目は葡萄酒(御血)のシンボル  
 であるぶどうを、三枚目は福江教会  
 堂をデザインしたものです。  
 父と子と聖霊の三位一体の神を信  
 じ、キリストの誕生、受難、復活の  
 救いの神秘に与かり、聖体の秘跡に  
 生かされて歩む福江教会共同体の姿  
 を表現することができたのではない  
 かと考えています。原案は主任司祭  
 が発想し、デザインは草々社の有川  
 智子氏、製作は有川喜石材店、施工  
 は岩忠工業が行いました。